

# かがわぬいぐるみ病院プロジェクト

代表者 田 畑 諒 (医学部医学科4年)

## 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、保育園、小児病棟、地域の祭りなど、子どもが集まる場で模擬診察や保健教育を実施することにより、子どもたちから医療に対する恐怖心や不安感を取り除き、積極的に治療、予防に取り組む気持ちを持ってもらったり、子どもたちに体の仕組みについて興味を持ってもらったりすることを目的としています。さらには子どもたちから家族や地域に疾病予防の輪、健康づくりの輪を広げていくことを目指します。また学生は、正しい医療知識を身につけ、さらに行動力や発信力を養っていきます。

## 2. 実施期間（実施日）

平成27年4月20日 から 平成28年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、ぬいぐるみを患者に見立て子どもに医師役を演じてもらう「お医者さん体験（模擬診察）」や、紙芝居などの手段で大勢の子どもたちに健康な暮らしの大切さを伝える「保健教育」を実施することが主な活動です。

今年度の活動のなかで新たに実現したこととして、香川大学医学部附属病院に入院中の患児に対して実施を行ったこと、香川県立保健医療大学および徳島文理大学の学生と合同で活動を行ったこと、また「健康な食生活」という新たな題材を実施のテーマに取り上げたことなどが挙げられます。

お医者さん体験は、香川大学医学部（10月11日）、香川県立保健医療大学（10月17日）、徳島文理大学（11月1日）の3大学の大学祭のほか、三木町のクリスマスイベント（12月23日）や「獅子たちの里 三木まんで願。」（10月24日）などの場で体験ブースを設け、実施を行いました。お医者さん体験では、子どもに白衣を着てもらい、聴診器やシリンジ（針のない注射器）、マスクなど、病院で実際に使用されている医療器具を用いて患者役のぬいぐるみを診察してもらいました。診察を終えると学生は「このぬいぐるみのように風邪をひかないためにはどうすればいいだろう」など

と子どもに問いかけ、子ども自身に疾病予防について考えてもらい、「手洗いうがい」や「早寝早起き」を欠かさない生活習慣を実践することを約束しました。最後には白衣を着た姿で写真を撮り、手づくりのカードに貼りつけて記念に持ち帰ってもらいました。記念品を持ち帰ってもらうことで、お医者さん体験のことを家庭で話したり後々思い出したりするきっかけになればと考えています。

徳島文理大学での実施では、徳島文理大学薬学部  
の学生が取り組んでいる「薬包体験」の活動とコラボレーションをしました。薬包体験のコーナーで用意されたお菓子の薬をお医者さん体験のコーナーで治療薬として処方し、参加した子どもたちにより一層喜んでもらえました。

香川大学医学部祭、「獅子たちの里 三木まんで願。」での実施はいずれも約40名の子どもに参加してもらい、会場は盛況でした。一方で香川県立保健医療大学や徳島文理大学では子どもの参加人数がどちらも10名前後と伸び悩む結果となり、事前のPR不足が反省点として挙がりました。



お医者さん体験の様子

保健教育の実施として、香川大学医学部附属病院の小児病棟夏祭り（8月24日）に参加させていただき、「健康な食生活」というテーマでパズルゲームのコーナーを設けました。入院中の患児約10名にパズルゲームを楽しんでもらいながら、栄養バランスのとれた食生活について学生から語りかけ、子どもたち自身に考えてもらう時間となりました。



保育園でクイズをする様子

また、保育園訪問（8月27日）や「獅子たちの里 三木まんで願。」（10月24日）の場では紙芝居を行いました。「健康な暮らし」をテーマに早寝早起き、手洗いうがい、歯みがき、好き嫌いのない食事など基本的な生活習慣を幅広く取り入れました。紙芝居の後にはクイズを行って定着を図り、参加してくれた子どもたち（各回20名程度）になるべく多くを家庭へ持ち帰ってもらえるよう工夫しました。

さらに、これらの実施の一助とするための活動として、ぬいぐるみ病院の活動に携わる学生が全国から集まるぬいぐるみ総会に参加したり、学生による勉強会を開いたりしました。

9月には東京で「ぬいぐるみ総会」が開催され、ぬいぐるみ病院の活動に携わる学生が全国から約60名集まり、香川大学からも5名の学生が参加しました。ぬいぐるみ総会では、各大学の活動内容を紹介しあったり、児童養護施設を訪問して実施をしたりと非常に多彩な内容が盛り込まれていました。

活動紹介の時間には、各大学が独自に工夫している点を発表しあい、さらには実際に使っている問診カルテや診察セットなどの小道具も持ち寄り、多くの大学のユニークなアイデアに触れる時間となりました。後日これを参考に、かがわぬいぐるみ病院では問診カルテの更新を行いました。また、かがわぬいぐるみ病院では前述のとおり、お医者さん体験に参加してくれた子どもに手作りの記念品をプレゼントしていますが、これをかがわならではの取り組みとして全国の学生に紹介することができました。

最終日には東京都内の児童養護施設を訪問して、模擬診察と紙芝居を用いた保健教育の実施を行いました。さまざまな事情から児童養護施設で生活をする子どもたちは、普段わたしたちが大学や地域のイベントで接する子どもたちとは違った状況で毎日を暮らしています。実施をさせてもらっただけでなく、職員の方からお話を伺うこともでき、これまで児童養護施設への訪問経験が無かったかがわぬいぐるみ病院にとって、大いに勉強になりました。

全3日間のプログラムを通して、単なる情報交換にとどまらず、ぬいぐるみ病院の活動を普段とは異なる角度から見つめることができたように思います。

11月に実施した勉強会では、お医者さん体験の活動で日頃使っている問診カルテに注目し、子どもにとってよりわかりやすく、学生にとってよりメッセージを伝えやすいカルテとはどのようなものかについてディスカッションをしました。9月のぬいぐるみ総会に参加した学生には、他大学のカルテを見て印象の良かった点を議論に反映してもらいました。

それを踏まえて1月には、子どもの年齢に応じて使い分けられるように2種類のカルテを新たに制作しました。新しいカルテは次年度以降の実施の場で導入していく予定です。



勉強会の様子

以上のような活動に取り組んできましたが、その背景には構成メンバー、特に新入生の存在があります。今年度の活動開始に先立って、医学部医学科新入生合宿（4月11日、12日）の場で、香大生の夢チャレンジプロジェクトの一例としてかがわぬいぐるみ病院の活動紹介をさせていただきました。その結果、今年度は医学部1年生6名を含む8名の新規メンバーに恵まれました。多くの新入生に加わってもらったことは、かがわぬいぐるみ病院が次年度以降も活発に活動を継続していくという点で大変心強いことだと考えております。



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業により、お医者さん体験や保健教育を実施することで、子どもたちから医療に対する恐怖心や不安感を取り除き、積極的に治療、予防に取り組む気持ちを持ってもらうことができました。実際に聴診器などの診療器具を使ってもらったことが、体の仕組みについて興味を持ってもらうことにもつながったと思います。子どもたちのなかには、1日の活動のなかで何度もお医者さん体験のブースを訪れる子も見られ、医療に大きな関心を持ってくれたと手応えを感じました。

また、香川大学から広報紙「カダイジェスト」や大学紹介MOVIEにとりあげていただいたことで、香川大学学生による特徴的な活動の一つとして、学内や地域社会にアピールすることができました。さらには香川大学医学部のオープンキャンパスにおいても活動紹介をさせてもらい、香川大学を目指す受験生に対してもPRになったことが期待されます。



オープンキャンパスの様子

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

かがわぬいぐるみ病院に携わった学生は、お医者さん体験や保健教育の活動を通して、子どもに対してより効果的に伝えるにはどのようにすればよいかを考えてきました。また、ぬいぐるみ病院の活動に携わる全国各地の学生や香川県内の医療系学生と接することで、情報収集や情報発信の経験を積むこともできました。子どもたちに直接はたらきかけたことはもちろんですが、全国や地域社会に関わりをもったことは、今後の学生生活、医療従事者としての生活の財産になる経験であったと思います。

#### 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点として、9月から11月にかけての一定期間にお医者さん体験の実施が集中してしまっただけが挙げられます。この時期は香川大学医学部祭が開催された時期でもあり参加学生の確保が難しく、また実施ごとの間隔がせまかったこともあり、各実施の事前準備や反省会が十分にできなかった点も改善の必要があると考えています。

今後は、地域社会との関わりを維持していき、小学生を対象とした実施を行うなど、より多様な活動を展開していきたいと考えています。次年度以降に活動をつなげていくための一つの取り組みとして、2月の時点では三木町役場と連絡をとり、三木町内の小学校などでの活動の機会を探しているところです。

かがわぬいぐるみ病院は2014年に結成して以来、およそ2年間にわたり活動をしてきました。2年目となる今年度は昨年度に比して、自らの活動の質を高めていく方法を考えることができたと思います。それでも実施の多い時期にはそれを実践しきれない場面もありました。次年度以降も、従来の活動に磨きをかけつつ、新たに組み入れることにも積極的に挑戦していく所存です。



## 7. 実施メンバー

代表者 田畑 諒 (医学部4年)

構成員 北中真里奈 (医学部2年)

作田美喜歩 (医学部6年)

水井 亮 (医学部6年)

竹内 満理 (医学部5年)

宇保早希子 (医学部4年)

岩永望由季 (医学部4年)

高橋 桜子 (医学部4年)

都野森紗希 (医学部4年)

苅田 咲子 (医学部3年)

塩 明日花 (医学部3年)

佐藤 凜彩 (医学部2年)

木村 佳代 (医学部1年)

徳田 匡紀 (医学部1年)

渡邊 朱里 (医学部1年)

牛尾 真子 (医学部6年)

佐伯 岳信 (医学部6年)

田川 涼葉 (医学部5年)

樋渡 健悟 (医学部5年)

高畠 唯 (医学部4年)

佐野 美夕 (医学部4年)

田村 瞳 (医学部4年)

豊柴めぐみ (医学部4年)

酒井 善紀 (医学部3年)

田山友紀子 (医学部3年)

石井 宙生 (医学部1年)

辻本 虹歩 (医学部1年)

板東 里佳 (医学部1年)